

# Asia Indicators

発表日: 2023年4月14日(金)

中国、3月輸出は新興国向けを中心に堅調維持 (Asia Weekly(4/9~4/14))

~豪州の雇用環境は量・質の両面で改善の動きが続いている模様~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/11(火)	( <a href="#">フィリピン</a> )2月輸出(前年比)	▲18.1%	--	▲13.1%
	2月輸入(前年比)	▲12.1%	--	+4.1%
	(中国)3月消費者物価(前年比)	+0.7%	+1.0%	+%
	3月生産者物価(前年比)	▲2.5%	▲2.5%	▲%
	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	( <a href="#">マレーシア</a> )2月鉱工業生産(前年比)	+3.6%	+2.7%	+1.8%
	( <a href="#">台湾</a> )3月輸出(前年比)	▲19.1%	▲15.4%	▲17.1%
4/12(水)	3月輸入(前年比)	▲20.1%	▲12.3%	▲9.4%
	( <a href="#">韓国</a> )3月失業率(季調済)	2.7%	--	2.6%
	( <a href="#">インド</a> )2月鉱工業生産(前年比)	+5.6%	+5.1%	+5.2%
4/13(木)	3月消費者物価(前年比)	+5.66%	+5.80%	+6.44%
	( <a href="#">豪州</a> )3月失業率(季調済)	3.5%	3.6%	3.5%
	( <a href="#">中国</a> )3月輸出(前年比)	+14.8%	▲7.0%	▲6.8%
4/14(金)	3月輸入(前年比)	▲1.4%	▲5.0%	▲10.2%
	(シンガポール)1-3月実質GDP(前年比・速報値)	+0.1%	+0.6%	+2.1%

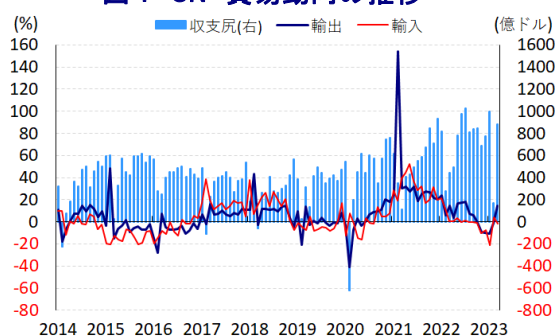
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## 【中国】~3月の輸出は新興国向けを中心に堅調さを維持も、先行きは世界経済の減速懸念の影響に懸念~

13日に発表された3月の輸出額は前年同月比+14.8%となり、1-2月(同▲6.8%)から前年を上回る伸びに転じており、単月ベースでは1月(同▲10.5%)、2月(同▲1.3%)ともに前年を下回る推移が続いていることを勘案すれば、6ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じたことになる。なお、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も4ヶ月連続で拡大しており、昨年末以降は底入れの動きを強めている様子がうかがえる。国・地域別では、欧米など主要国を中心に世界経済の減速懸念が高まっていることを反映して米国向け(前年比▲7.7%)や日本向け(同▲4.8%)は前年を下回る推移が続いているほか、EU向け(同+3.4%)もわずかに前年を上回る伸びに留まるなど、先進国向けを中心に力強さを欠く推移が続く。一方、保税地域である香港向け(前年比+20.0%)が大きく拡大しているほか、アフリカ向け(同+46.5%)、ASEAN向け(同+35.4%)、中南米向け(同+18.8%)などは軒並み前年を大きく上回る伸びをみせているほか、昨年のウクライナ情勢悪化を受けて関係深化が続くロシア向

け(同+136.4%)は大きく上振れしている。種類別でも、輸入素材・部材による加工組立関連(▲12.3%)や加工組立関連(同▲9.9%)などは前年を下回る推移が続く一方、一般的な中国製品(同+22.1%)の輸出額が底入れしているものの、保税地域向け(同+39.9%)や中継貿易(同+20.5%)、周辺国との国境貿易(同+113.1%)などが大きく拡大している。一方の輸入額は前年同月比▲1.4%と1-2月(同▲10.2%)からマイナス幅は縮小するも前年を下回る推移が続いているほか、単月ベースでは2月(同+4.2%)から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じるなど頭打ちしている。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じており、春節連休後の底入れの動きが再び頭打ちに転じている様子うかがえる。ハイテク関連を中心に輸入に下押し圧力が掛かる展開が続く一方、穀物関連やエネルギー関連、鉱物資源関連の輸入は底打ちしており、国際商品市況の調整の動きが輸入額の重石になっているとみられる。結果、貿易収支は+881.91億ドルと1-2月(+1168.85億ドル)から黒字幅は縮小するも堅調な推移をみせている。

図1 CN 貿易動向の推移

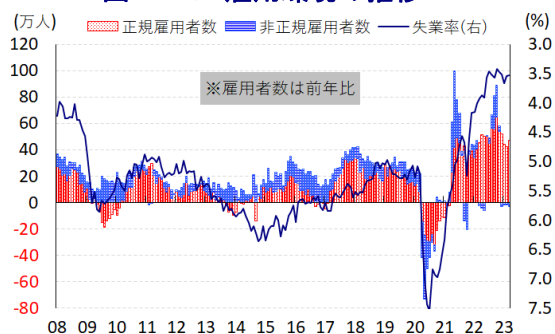


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [豪州]～足下の雇用環境は量、質の両面で改善が続いている上、地域的にも全土で幅広く改善が続いている～

13日に発表された3月の失業率(季調済)は3.5%となり、前月(3.5%)から横這いで推移している。失業者数は前月比▲0.2万人と前月(同▲1.6万人)から2ヶ月連続で減少しており、雇用形態別では非正規雇用に対する求職者数(同+0.1万人)は2ヶ月ぶりとなる拡大に転じる一方、正規雇用に対する求職者数(同▲0.3万人)が2ヶ月連続で減少して全体を下押ししている。一方の雇用者数は前月比+5.3万人と前月(同+6.4万人)から2ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別では非正規雇用者数(同▲1.9万人)が減少する一方で正規雇用者数(同+7.2万人)は2ヶ月連続で大幅に拡大しており、雇用は量、及び質の両面で拡大している様子うかがえる。地域別でも、多くの地域で雇用拡大の動きが確認されている上、第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州や、第3の都市ブリスベンを擁するクィーンズランド州など大都市部のみならず、資源関連産業の割合が高い西オーストラリア州においても拡大する動きがみられるなど、全般的に雇用環境が改善している。さらに、労働力人口は前月比+5.1万人と前月(同+4.8万人)から3ヶ月連続で拡大するなど、労働市場への参入意欲が改善している様子うかがえるほか、こうした動きを反映して労働参加率は66.7%と前月(66.7%)から横這いで推移しており、雇用環境は改善の動きを強めていると捉えられる。

図2 AU 雇用環境の推移



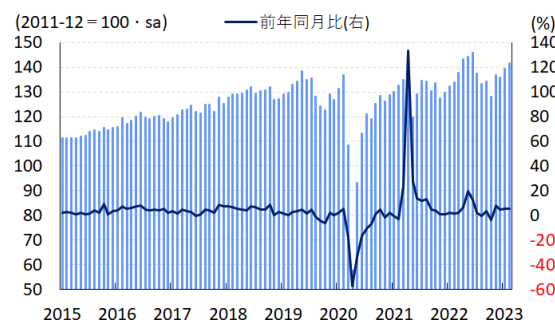
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

## [インド]～エネルギー価格の落ち着きを受けてインフレ率、コアインフレ率ともに中銀目標の範囲内に収まる～

12日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+5.6%となり、前月(同+5.2%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子が見えてくる。鉱業部門の生産は弱含む展開をみせる一方、幅広く製造業部門において生産が底入れする動きがみられ、消費財関連のみならず、中間財関連、資本財関連など全般的に生産が拡大しており、内・外需双方に底堅い動きが続いていることが生産活動を下支えしていると捉えられる。

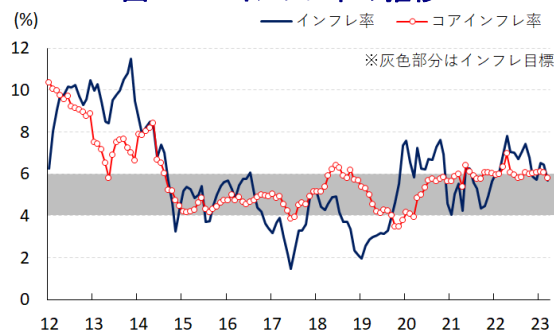
また、同日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+5.66%となり、前月(同+6.44%)から鈍化して3ヶ月ぶりに中銀(インド準備銀行)の定めるインフレ目標(4±2%)の上限を下回る水準となっている。ただし、前月比は+0.23%と前月(同+0.17%)から上昇ペースは加速しており、国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移が続く一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇するなど生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+5.78%となり、前月(同+6.05%)から鈍化して5ヶ月ぶりにインフレ目標の上限を下回る水準となっている。前月比も+0.27%と前月(同+0.49%)から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格の安定を反映する形で輸送コストの上昇ペースが鈍化している上、国際金融市場における通貨ルピー安の動きに一服感が出ており輸入インフレ圧力が後退していることも反映して幅広く財価格の上昇圧力が後退している一方、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価に上昇圧力が掛かりやすい展開が続いている。

図3 IN 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成、季節調整値は当社試算

図4 IN インフレ率の推移

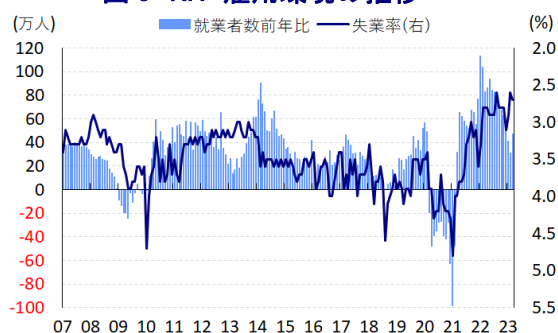


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

## 【韓国】～高齢層を中心に労働市場からの退出の動きが強まる一方、若年層の雇用環境には底打ちの兆し～

12日に発表された3月の失業率（季調済）は2.7%となり、過去最低水準となった前月（2.6%）から0.1pt悪化している。失業者数は前月比+3.9万人と前月（同▲9.9万人）から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、年代別では前月まで減少傾向が続いた60代以上の高齢層が拡大に転じているほか、20代や30代などでも拡大する動きが確認されている。一方の雇用者数は前月比+9.3万人と前月（同+27.7万人）から2ヶ月連続で拡大しており、年代別では前月まで拡大の動きが続いた60代以上の高齢層で減少に転じる動きがみられる一方、対照的に減少傾向が続いた10代や20代など若年層で底打ちする動きがみられる。雇用形態別でも、非正規雇用者数のみならず、正規雇用者数もともに拡大する動きが確認されているものの、雇用者数全体に占める非正規比率は一段と上昇する動きがみられる。一方、労働者人口は前月比+1.3万人と前月（同+1.8万人）から2ヶ月連続で拡大しているものの、年代別では若年層や働き盛り世代を中心に拡大している一方、60代以上や50代など高齢層を中心に減少する対照的な動きをみせている。こうした動きを反映して労働参加率は64.5%と前月（64.2%）から+0.3pt上昇しており、若年層を取り巻く雇用環境は当面の最悪期を過ぎつつある様子がうかがえる。

図5 KR 雇用環境の推移

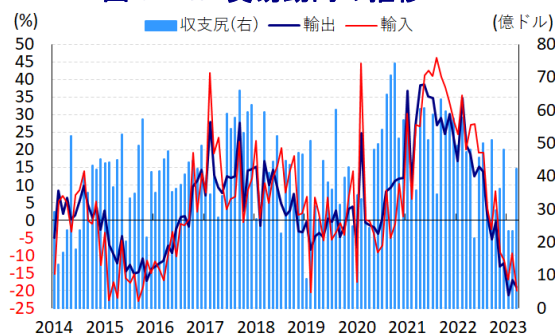


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

## 【台湾】～商品市況の調整の動きも重なり、輸出入ともに一段と頭打ちの動きを強める展開が続いている～

11日に発表された3月の輸出額は前年同月比▲19.1%と7ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲17.1%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲2.8%と前月（同▲7.7%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連に底堅い動きがみられるものの、化学製品関連や金属関連、鉱物資源関連など素材・部材関連の輸出に幅広く下押し圧力が掛かり、輸出全体を下押ししている。国・地域別でも、米国向けや欧州向けなどに底堅い動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国本土向けのほか、日本やアジア新興国向けなどが総じて鈍化している。一方の輸入額は前年同月比▲20.1%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲9.4%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲9.9%と前月（同▲4.0%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して素材・部材関連の需要に下押し圧力が掛かっている上、原油をはじめとする国際商品市況が調整の動きを強めたことも輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は+42.21億ドルと前月（+23.50億ドル）から黒字幅が拡大している。

図6 TW 貿易動向の推移

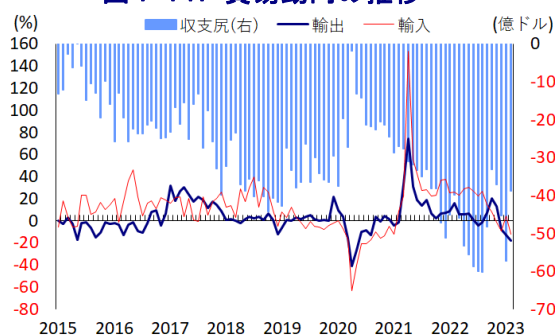


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [フィリピン]～世界経済の減速懸念の高まりを受けて、輸出入双方で一段と下押し圧力が掛かる展開が続く～

11日に発表された2月の輸出額は前年同月比▲18.1%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲13.1%)からマイナス幅は拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も4ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど頭打ちの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が一段と下振れしているほか、商品市況の調整の動きを反映して鉱物資源関連の輸出に下押し圧力が掛かるとともに、農産品関連の輸出も鈍化するなど幅広く弱含む展開が続いている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEAN(東南アジア諸国連合)向け、韓国・台湾向けなどアジア新興国のみならず、日本や米国、EU(欧州連合)向けなど先進国向けも幅広く下振れするなど、世界経済の減速懸念が輸出の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲12.1%となり、前月(同+4.1%)から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きが続いている。輸出の低迷を反映して素材及び部材関連に対する需要が下振れしているほか、商品市況の調整の動きも重なり輸入額に下押し圧力が掛かっている。結果、貿易収支は▲38.77億ドルと前月(▲57.33億ドル)から赤字幅が縮小している。

図7 PH 貿易動向の推移



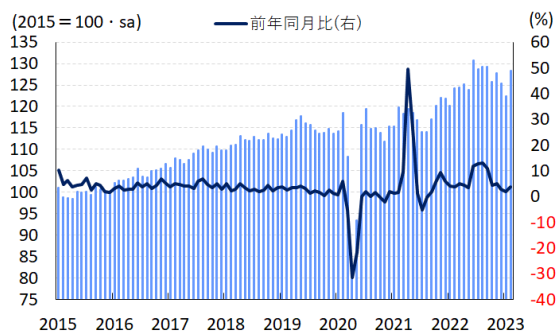
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～製造業の生産に底打ち感も、鉱業部門の生産は弱含む展開が続くなど対照的な動きをみせる～

11日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+3.6%となり、前月(同+1.8%)から伸びが加速している。前月比も+4.93%と前月(同▲2.38%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの兆しが見え始めるものの、中期的な基調は引き続き減少傾向で推移するなど全体的な流れが変化するには至っていない。

ていない。分野別では、主力の輸出財である電子部品関連や食料品関連などをはじめとする製造業の生産が拡大に転じる動きがみられる一方、原油や天然ガスをはじめとする鉱物資源関連の生産は弱含む展開が続くなど対照的な動きをみせている。なお、経済活動全般の動きに連動しやすい発電量は拡大に転じるなど、景気の底打ちを示唆する動きもみられるものの、中期的な基調としては減少傾向で推移する展開が続くなど全体的な流れが大きく変化している状況にはないと捉えられる。

図 8 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。